

生まれた町、育った町、

これからも暮らす町。

この町にどんな人が

住んでいたのか。

この町でどんなことが

あったのか。

そんな身近なことが

大切に思えてきた。

みんなの記憶をたずねて、

じぶんの町が  
おもしろい。

集めて、つないでいく。

そうすると、

鉄砲町・二十人町の

ものがたりが

できあがる。

世界でたったひとつの

ものがたり。それが「地元学」。

住んでることがもっと楽しくなる。

町との新しいつきあいがはじまる。

# 鉄砲町

榴岡といっしょに生きてきた

# 二十人町

6回散水するポンプを納めてあった。(武田順三さんの話)

## 国分策店

昭和14年頃、広丁角に移転する。笹製作を手広く商い、常時12〜13人の職人がいた。身障者雇用促進、納入先は片倉製糸工業。繭玉を入れる籠等を納める。後継者なく廃業。

(武田順三さんの話)

作業場がとても広かったので、選挙の演説会場などによく使われた。そして警官が立ち会っていて不穏なことを言うと、すぐに「弁士中止」と言って演説を止められた。

(伊藤きよさんの話)

## 松本外科車庫

昭和7年頃、自家用車を持ち、お抱え運転士がいた。車の値段は当時のお金で

700円と聞いている。(武田順三さんの話)

## 武田製麵所

(現在主 武田順三さん69才)  
大正10年現在地。父親が分家

し、除隊後に製麵業を営む。明治40年から製麵所と左官を兼業。それ以前は曾祖父の代から車鍛冶。(写真右下)

## 高橋理髪店

終戦後、転業。鮎専門の店。製造販売。

## ふかし芋屋

間口一間、ふかし芋専門。また、子供相手の一銭店も片隅にあった。大人も子供もよく買い、代用食にもなった。新聞紙に包む。(武田順三さんの話)

## 菊善商店

(現在主 菊地章造さん55才)  
大正時代初期から住む。現在の商売は明治の終わり頃から。先々代の方々は鳳山酒造の一番



武田製麵所



菊善商店



(及川とし江さんの話)

## 井戸

・地下水脈の位置が高かったので、雨が降ると上の方まで水がきていて、手で汲み上げる事もできたんですよ。

(沼田きんさんの話)

・井戸は神聖な所と言われて、汚い物なんか絶対に流してはダメでした。今でも、井戸神様、お水神さんですよ。歳の屋根のきしの所に祀っていて、年末にはちゃんとお掃除をして、お天神さんから幣束をおうけして来ます。何か事あるたんびに拝むという習慣が続いています。

(及川とし江さんの話)

・借家の場合は井戸は共同で使っていたの。ここは4軒借家があったから、一つの井戸を四軒で使っていたのね。そこで洗濯でも何でもやったから、井戸端

会議っていうのがあったわけだ

わね。(只野ヒテ子さんの話)

## 井戸かい

人足さんを頼んで井戸の掃除をしてもらうんです。5、6人

で来て、一人は裸になって井戸

の中に入り中の泥みたいなのを

かき出して、他の人はそれを汲

み上げる訳です。何回も繰り返

してね。結局まる一日がかりの

仕事でしたよ。人足さん達って

いうのは、田舎

の人達で、農閑

期に大工さんが

連れてきてくれ

るです。家では

その人達が帰る

時に、新しい下

着をこしらえ

て、それにお酒

をつけてあげま

した。(及川と

し江さんの話)

## 洗濯

井戸は神聖な

所だったので、

下着やズック、

長靴なんかは風呂場で洗いまし

た。その他の物は洗ってまし

た。(及川とし江さんの話)

井戸水を使い、たらいでせつ

けん(くじらの油)で洗った。

## 水汲み

水汲みといって、水がめに水

を汲んでいました。けれど、私

の頃はあんまりしなくても良か

ったですね。わりと早くから水

道もついていたし。つるべで水

を汲むのは本当に重く大変で、

20年位前になると思うけれど、

借家に入っていた人が音をあげ

て、「お金を出すからポンプに

しても良いですか」と言ってきた

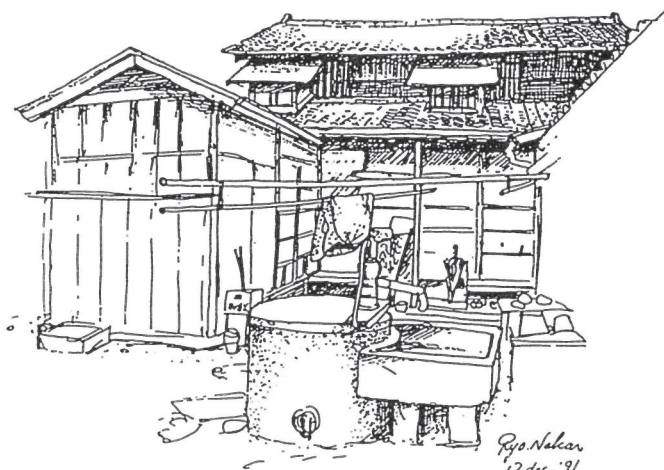
たので、その時やっとポンプに

かえました。

(及川とし江さんの話)

## 風呂の水汲み

風呂の水汲みは、前はつるべ



及川家借家裏の様子